

兵庫県医師会医療支援チーム（第17陣）「宮城県災害支援現地報告」

川西市医師会 竹本 博行

震災から1ヶ月半経過し、幸いなことに仙台空港が再開され仙台空港経由での派遣となりまずは飛行機からの空港周辺のすべてがなぎ倒されている風景に覚悟はしていましたが驚愕しました。石巻へのアクセスが改善され、これまでに聞き及んでいた状況とは違ってお昼前の現地到着となりました。16陣鈴木先生からの引継ぎをうけ、その後谷澤先生から日和山公園に案内され桜の美しさと裏腹な震災状況を見せられ言葉を失いました。到着の午後から通常の診療業務を開始しましたがそれまでと違って来所者数はかなり減少してきたことと現地スタッフの慣れてきたこと、ならびに備品の所在が確認・整理されたことで業務が滞ることなくできました。我々の担当は石巻中学・住吉中学・山下小学校・図書館・公民館の5箇所です。5名（内科2名・小児科1名・整形外科1名・眼科1名）で順次巡回診療を御用聞きよろしく行きました。とりわけ眼科はエリア4内の他の避難所に眼科がないこともあり眼科医師の帯同を周知することで前記避難所以外からも診察依頼がありました。避難所での集団生活に伴い感染性疾患の流行が危惧され日赤のミーティングでも日々チェックされていましたが管理が行き届いた結果なのか意外と少ないと感じました。一方時間の経過とともに避難所内の人間関係のトラブルとか個々人の精神的不安定さに由来した疾患とかを今後注意しなければいけないだろうと感じました。さらに子供たちの「空元気さ」がすごく気になりました。また本当に体調の悪い高齢者は自分から体調の悪さを訴えてこないのに緻密な声かけが必要だとも・・・さらには夜間医師不在の避難所ではAEDは絶対必要であり（我々滞在中に日赤より搬入）その講習会を18陣森先生に託しました。最後に今回の災害派遣で実感したことは、なにも高度なことをする必要はなく寄り添うだけの医師で良いのだと・・・。